

## 4 OJTに取り組んで

### 成果

- 学校の課題に対応した悉皆研修を実施したことにより、今後取り組んでいくことの共通理解を図ることができた。
- OJT実践シートを全職員が記入することにより、自己の研修やOJTの必要性を意識化することができた。
- 「自由参加研修」を実施したことにより、職員が学び合うことの有効性を感じることができ、職員間の同僚性を高めることができた。
- 「学び合い付箋紙」の活用は、受講者の研修に対する振り返りをおこなうことができるとともに、講師にとっては励みになるものとなった。

#### 《先生方の声》

自由参加のOJTでは、自分のちょっと知りたいことを気軽に知ることができ、とてもよかった。また、そのような機会があることで、それぞれの先生方のまた違ったよい面を発見することができ、研修の+αがあると感じた。

#### 《先生方の声》

普段、中々伺うことの出来ない内容を学ぶことが出来て、執務の向上につながり、精神的にも安定して業務を行う事が出来た。1人ではチャレンジできないことでも皆で学べば同志も出来て、やってみようという気持ちにもなり励まされた。

#### 《先生方の声》

自分の都合の良いときに気楽に参加できる体制がとてもいいと思った。普段自分が実践していることをそのまま伝えることができた。同僚の先生方の得意分野を研修でき、今後、自分の学習指導、学級経営に活かそうと思った。

#### 《先生方の声》

今年度も沢山のOJTに参加させて頂き、自身も貴重な授業提供の機会を頂くことができた。学年会では、学年主任の先生から学級経営のノウハウを数え切れないほど教えて頂いた。学年会という機会だけではなく、平日頃から気に掛けていただき、とても有り難かった。

## 今後に向けて

- 調査研究協力校として、年度途中からOJTの土台作りに取り組んできたので、**教育目標の具現化**という視点までは、浸透しきれなかった。この取組を継続して進めるとともに、新年度に向けてさらに整備していくことが必要である。
- 「校内研修アンケート」には、たくさんの希望が寄せられたが、すべてを実施することは時間的に無理であり、精選して計画を立て実施した。新年度計画作成の際に、**あらかじめ研修日を設ける**など、計画的に取り組むことの必要性を感じた。
- 教員各自にそれぞれの得意分野があるが、自分から講師として名乗り出ることには遠慮がちな方が多い。頼まれれば了解してくれる場合が多いので、ファシリテーターは、**先生方の得意分野等の情報収集に努め、講師の依頼をしていく**ことが今後も必要である。この取組を継続していくことで、より活気のあるOJTの環境づくりができると思う。
- これからも継続的にOJTを実践していくためには、例えば各学年1名ずつ選出したOJT推進委員会など**ファシリテーターを中心とした体制づくり**を行い、連絡・調整をスムーズにしていくことが必要である。